

*** FOR IMMEDIATE PUBLICATION ***

プレス・リリース

**Genelec と Mick 沢口氏が「主観的イマーシブ」
レコーディング・プロジェクトで協力**

フィンランド、ラハティ、2019年12月... Genelec は、日本のトップ・エンジニアである Mick 沢口氏と協力し、ラハティのシベリウス・ホールにてフィンランドの有名演奏家のアンサンブルによるクラシック音楽のパフォーマンスを収録した、高品質なイマーシブ・レコーディング作品を制作しました。Genelec モニターを全面的に用いたこの録音は、今年11月に日本で開催された Inter BEE にて初披露され、今後も世界各地で開催されるショーやイベントにおける Genelec のリスニング・セッションにおいて重要な役割を担っていきます。

Mick 沢口氏は、2018年に東京で開催された AES イマーシブ・オーディオに関する会議でのミーティングが、本プロジェクトのスタートになったことを次の様に振り返ります。「この会議でイマーシブの音楽録音について講義を行い、Genelec デモ・ルームでは UNAMAS レーベルの様々な録音を紹介しました。このイベントで、Genelec マネージング・ディレクターである Siamäk Naghian 博士と、同社のリファレンス・ディスクとなりうるイマーシブ・レコーディングの制作に関する共同作業について話し合いました」

1年後、このプロジェクトはプロのコントラバス奏者で Genelec ブランドのアーティストでもある Juho Martikainen を迎え、そのコンセプトについて Mick 沢口と緊密に協力することによってさらに発展しました。この二人は、レコーディングで取り上げる楽曲と、それを演奏するクラシック演奏家の選択に取り組みました。

「それは非常に自然なプロセスで、私は誰と演奏したいのか、こういったレパートリーを録音するのかを自由に決めることができました」と Martikainen は語ります。「Mick 沢口氏はコントラバスのサウンドがとても好きで、クラシックな演奏を望んでいました。このタイプの音楽はイマーシブのオーディオ・フォーマットに最適であると感じていたからです」

「収録作品を選ぶ際には多くの選択肢を試しましたが、最初の作品は、確実なところであり、私の気に入りにあるフランツ・シューベルトのピアノ五重奏曲 (D. 667) で行くことにしました」と Martikainen は続けます。「その後、もともと2つのチェロのために作曲されたバロック作品であるジャン＝バティスト・バリエールのソナテ第10番を選びましたが、これはコントラバスとチェロ用に編曲し演奏しました。それからもちろん、コントラバスの真のヴァーチュオーゾであったジョヴァンニ・ボッテジーニの曲も外せないと考え、それならばおそらく彼の最も有名な作品である『エレジー』が良いだろうと考えました」

「この録音では最新の機材を使用しつつ、マイキングはできるだけシンプルにしました」と Mick 沢口氏は付け加えます。「メイン・マイクロフォンの周りに演奏家を配置し、さらにホールの豊かなサウンドを捉えるためにスパイダー・ツリーのセットアップも選びました。アートを捉えるツールとしてマイクロフォンを使用するこの方法を、私は『主観的イマーシブ』と呼んでいます」

モニタリング・ソリューションは、収録が行われたシベリウス・ホールのロビー・スペース内に配置された **Genelec** の **8341** 同軸ポイント・ソース・モニターで構成され、これは日本の Mick 沢口氏のレコーディング・スタジオにて最終ミックスが施される前のイマーシブ録音のモニタリング・ルームとなりました。このタイプのアドホック・モニタリング環境では、**Genelec** の **GLM** キャリブレーション・ソフトウェアは、特定の音響空間用に **8341** を最適化し、望ましくない音響の影響を最小限に抑える上で非常に役立ちました。

「この種の現場での録音プロジェクトでは、モニタリング環境の構築が困難となる場合があります。音響が良好な専用のモニタリング・ルームを備えた収録場所を見つけられることはほとんどありません」と、**Martikainen** は述べています。「しかし、**8341** は完璧なソリューションでした。私たちは全員、このモニタリング環境を通して、自分が演奏したものや、それが実際にどのように聞こえたかを聴くことができましたし、それは演奏家にとって理想的なことです」

「一般的に、最近における多くの録音は磨かれ過ぎており、“実際にそれが生まれた瞬間の空気感や雰囲気”が失われてしまっていると感じます」と **Martikainen** は振り返ります。「**Genelec** の私たちにとって、それは音楽に関する全てであり、その再現こそが目標でした。それは創造性に関することで、音楽が持つ力を最高レベルで引き出す助けとなるものです。私は録音されたトラックを聴いた時、これがとても素晴らしいもので、音楽が生まれた空気感や雰囲気を見事に捉えていることを確信しました。」

Inter BEE 2019 で初披露され大成功を収めたプレゼンテーションの後、この録音作品は世界各地において今後開催される **Genelec** のイマーシブ・システムを紹介するイベントにて活用される予定です。**Genelec** はまた、イマーシブ素材として使用可能な他のタイプのプラットフォームについても研究しています。「今、世界ではイマーシブ音楽に熱い視線が注がれていると感じます。イマーシブ音楽は今後、多くの人々が楽しむ新しいフォーマットになるに違いありません」と **Martikainen** は述べています。

このプロジェクトを愛おしく振り返り、**Martikainen** は次のように締め括りました。「Mick 沢口氏とのワークは、生涯有数の素晴らしい経験でした。ミュージシャンとしてこのプロジェクトに参加できたことをとても光栄に思っており、素晴らしい設備を備えた素晴らしいホールにて、素晴らしい仲間と演奏できたことは非常に幸運だったと感じています。本当に最高のプロジェクトでした！」

Genelec について

1978年の創業以来、**Genelec** の事業の中核となっているのはプロフェッショナル・オーディオ・モニタリングです。他の追随を許さない **Genelec** の研究開発への取り組みは、数々の業界初製品を生み出し、アクティブ・モニターで業界を牽引する存在としての **Genelec** の立場を確立させました。40年の月日を経た今も、**Genelec** のモニタリング製品は当初の企業哲学に忠実なままで、信頼

性、サイズに関わらず色付けのないサウンドの再現力、周波数特性にリスニング環境に適応させる機能を提供しています。Genelec のお客様は、音響についてのアドバイスや調整サービスから、テクニカル・サービスや長い製品耐用年数に至るまで、この分野のあらゆる側面において最高レベルのサポートを受けることができます。Genelec 製品を購入することは、オーディオ・モニタリングに対する最も堅実な投資となるでしょう。

プレス情報やお問い合わせ先：

Genelec Oy マーケティング・コミュニケーションズ・マネージャー Mari Primetta

Tel: + 358 44 799 5074 email: mari.primetta@genelec.com